

令和 6 年 5 月 7 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K07583

研究課題名（和文）青年期の抑うつ症状と社交不安症状に関する包括的、縦断的検討

研究課題名（英文）A comprehensive, longitudinal study of depressive and social anxiety symptoms in adolescents

研究代表者

朝倉 聡（Asakura, Satoshi）

北海道大学・保健センター・教授

研究者番号：30333602

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：大学生において、人格特性としての高い損害回避は、うつ病を伴うあるいは伴わない社交不安症の予測因子となり、高い抑うつ症状と人格特性としての低い自己志向は、うつ病を伴う社交不安症の予測因子となった。社交不安症状、自尊感情・自己効力感、絶望感と自殺関係念慮についての検討では、社交不安症状と自尊感情・自己効力感が自殺関係念慮の予測因子であった。また、社交不安症状と自尊感情・自己効力感が自殺関係念慮に及ぼす影響は、絶望感によって部分的に媒介されていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学生年代の青年期においての自殺予防対策として、うつ病とこれに併存することが多い社交不安症についての検討は重要と考えられる。今回、社交不安症の予測因子となる人格特性、うつ病を伴う社交不安症の予測因子となる人格特性が推定され、社交不安症状、自尊感情・自己効力感、絶望感と自殺関係念慮について、媒介要因を含めての関連が検討できたことは、青年期の自殺予防対策において、学術的、社会的意義は大きいものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In university students, high harm-avoidance as a personality trait was predictive of social anxiety disorder with or without major depressive episode, and high depressive symptoms and low self-directedness as personality traits were predictive of social anxiety disorder with major depressive episode. In the relationship of social anxiety symptoms, self-esteem, hopelessness, and suicidal ideation, social anxiety symptoms and self-esteem were predictors of suicidal ideation. The effects of social anxiety symptoms and self-esteem on suicidal ideation were partially mediated by hopelessness.

研究分野：精神神経科学

キーワード：青年期 抑うつ症状 社交不安症状

1. 研究開始当初の背景

青年期のうつ病に対する対応は、自殺対策としても重要であり「自殺総合対策大綱」においても「自殺総合対策における当面の重要施策」として「子ども・若者の自殺対策を更に推進する」ことが明記された。社交不安症は、うつ病に併存することが多い不安症として報告されており、うつ病の発症危険因子のみならず経過増悪因子となることも指摘されている。このため、青年期における社交不安症状と抑うつ症状の関連について検討することは重要と考えられた。

2. 研究の目的

青年期の症例に対し、その人格特性、自尊心・自己効力感、絶望感、自殺関連念慮等と社交不安症状、抑うつ症状との関連を検討することを目的とした。これにより、有効な早期介入や治療的対応等を明らかにし、青年期の自殺対策に寄与したい。

3. 研究の方法

(1) 大学保健センターを受診した大学生を対象とし、受診時に施行した抑うつ症状を評価する Patient Health Questionnaire (PHQ-9) のアルゴリズム診断でうつ病を、社交不安症状を評価する Liebowitz Social Anxiety Scale (LSAS) と Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI) の社交不安項目で社交不安症を診断した。精神医学的診断がつかなかったものをコントロール群とし、うつ病群、社交不安症群、うつ病を伴う社交不安症群を大学入学時に施行された Temperament and Character Inventory (TCI) による人格特性についての評価、PHQ-9 による抑うつ症状の評価について ANOVA と Post-hoc 解析として Dunnett 's test を使用し比較検討した。

(2) 大学保健センターを受診した大学生を対象とし、PHQ-9 で抑うつ症状と自殺関係念慮を LSAS で社交不安症状を Rosenberg 's Self-Esteem Scale (RSES) で自尊心・自己効力感を Beck Hopelessness Scale (BHS) で絶望感を評価した。これらの関連について重回帰分析と共分散構造分析を使用して検討した。

4. 研究成果

(1) 大学保健センターを受診した大学生を対象としたが、対象となった大学生は平均で入学後 2 年以上であった。受診時の抑うつ症状を評価する PHQ-9 合計点は、うつ病群とうつ病を伴う社交不安症群で有意に高かった。また、受診時の社交不安症状を評価する LSAS では、LSAS 合計得点、LSAS 恐怖症状得点、LSAS 回避症状得点ともに社交不安症群、うつ病を伴う社交不安症群で有意に高かった。これらにより、4 群の群分けは適切に行われていると考えられた。コントロール群、うつ病群、社交不安症群、うつ病を伴う社交不安症群の 4 群間で大学入学時に人格特性の評価として施行した TCI での損害回避と自己志向および抑うつ症状の評価として施行した PHQ-9 の合計得点で有意差が認められた。Post-hoc 解析の結果、コントロール群と比較しうつ病を伴う社交不安症群で人格特性の評価として施行した TCI での損害回避と自己志向および抑うつ症状の

評価として施行した PHQ-9 の合計得点で有意差が認められた。また、コントロール群と比較し社交不安症群で人格特性の評価として施行した TCI での損害回避で有意差が認められた。これらの結果から、入学時の人格特性として高い損害回避傾向は、その後のうつ病を伴うあるいは伴わない社交不安症の発症の予測因子になることが推察された。また、入学時の高い抑うつ症状と人格特性として低い自己志向傾向は、うつ病を伴う社交不安障害の予測因子になることが推察された。これらの結果は、未治療の同じ大学での対象を入学後 2 年以上の長期間の経過で検討したことから国内外においても重要で、意義は大きいと考えられた。今後は、うつ病および社交不安症の発症に関わる因子に対する早期介入について検討が必要と考えられた。

(2) 大学保健センターを受診した大学生を対象とし、PHQ-9 で抑うつ症状、PHQ-9 の 9 項目目で自殺関係念慮を LSAS で社交不安症状を RSES で自尊心・自己効力感を BHS で絶望感を評価した。重回帰分析の結果では、LSAS で評価した社交不安症状と RSES で評価した自尊心・自己効力感 PHQ-9 の 9 項目の自殺関係念慮の有意な予測因子である事が確認された。共分散構造分析の結果から LSAS で評価した社交不安症状と RSES で評価した自尊心・自己効力感が自殺関係念慮に及ぼす影響は、BHS で評価した絶望感によって部分的に媒介されていることが確認された。Bootstrap 法での結果からは媒介モデルの直接効果と間接効果が有意であることが確認された。さらに、絶望感は、LSAS で評価した社交不安症状と RSES で評価した自尊心・自己効力感と PHQ-9 で評価した抑うつ症状とを媒介していた。これらの結果から、大学生では、低い自尊心・自己効力感と高い社交不安が絶望感を持ちやすくすることと関連しており、これらが自殺関係念慮を抱くことに繋がりやすいと推察された。また、絶望感は、うつ病における自尊心・自己効力感と社交不安を部分的に媒介していると推察された。絶望感の媒介の役割が、社交不安症状、自尊心・自己効力感、自殺関係念慮の間で国内の大学生で示された初めての検討であり、意義深いと考えられる。自殺予防対策として、自尊心・自己効力感を高め社交不安を低下させる介入が有効であると考えられ、絶望感から自殺関係念慮にいたるのを防ぐプログラムの開発が今後期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 Mitsui Nobuyuki, Fujii Yutaka, Asakura Satoshi, Imai Hissei, Yamada Hisashi, Yoshinaga Naoki, Kanai Yoshihiro, Inoue Takeshi, Shimizu Eiji	4. 巻 42
2. 論文標題 Antidepressants for social anxiety disorder: A systematic review and meta analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 398 ~ 409
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12275	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Dat Nguyen Tan, Mitsui Nobuyuki, Asakura Satoshi, Takanobu Keisuke, Fujii Yutaka, Toyoshima Kuniyoshi, Kako Yuki, Kusumi Ichiro	4. 巻 13
2. 論文標題 The Effectiveness of Self-Esteem-Related Interventions in Reducing Suicidal Behaviors: A Systematic Review and Meta-Analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2022.925423	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Fujii Yutaka, Asakura Satoshi, Dat Nguyen Tan, Takanobu Keisuke, Watanabe Shinya, Toyoshima Kuniyoshi, Mitsui Nobuyuki, Toyomaki Atsuhito, Hashimoto Naoki, Kako Yuki, Kusumi Ichiro	4. 巻 75
2. 論文標題 Comparison of convinced subtype of Taijin-kyofu and schizophrenia on cognitive assessments of Japanese patients	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 103215 ~ 103215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2022.103215	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 朝倉 聡	4. 巻 64増大号
2. 論文標題 社交不安症	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 643-648
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井 泰, 朝倉 聡	4. 巻 124
2. 論文標題 不安又は恐怖関連症群	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 409-415
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takanobu Keisuke, Mitsui Nobuyuki, Watanabe Shinya, Toyoshima Kuniyoshi, Fujii Yutaka, Kako Yuki, Asakura Satoshi, Kusumi Ichiro	4. 巻 16
2. 論文標題 Character configuration, major depressive episodes, and suicide-related ideation among Japanese undergraduates	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0251503
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0251503	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Shinya, Mitsui Nobuyuki, Asakura Satoshi, Toyoshima Kuniyoshi, Takanobu Keisuke, Fujii Yutaka, Kako Yuki, Kusumi Ichiro	4. 巻 16
2. 論文標題 Predictors of social anxiety disorder with major depressive episodes among Japanese university students	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0257793
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0257793	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Dat Nguyen Tan, Mitsui Nobuyuki, Asakura Satoshi, Watanabe Shinya, Takanobu Keisuke, Fujii Yutaka, Toyoshima Kuniyoshi, Kako Yuki, Kusumi Ichiro	4. 巻 6
2. 論文標題 The mediating role of hopelessness in the relationship between self-esteem, social anxiety, and suicidal ideation among Japanese university students who visited a university health care center	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders Reports	6. 最初と最後の頁 100192 ~ 100192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jadr.2021.100192	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujii Yutaka, Asakura Satoshi, Takanobu Keisuke, Watanabe Shinya, Toyoshima Kuniyoshi, Mitsui Nobuyuki, Kako Yuki, Hashino Satoshi, Kusumi Ichiro	4. 巻 75
2. 論文標題 Prevalence of depressive symptoms and psychological distress in Japanese university enrolled students before and during the coronavirus disease 2019 pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 294 ~ 295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13287	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 朝倉 聡	4. 巻 63
2. 論文標題 社交不安症	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 1641-1648
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井 泰, 朝倉 聡	4. 巻 26
2. 論文標題 うつ病と不安	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 最新精神医学	6. 最初と最後の頁 125-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mitsui N, Asakura S, Takanobu K, Watanabe S, Toyoshima K, Kako Y, Ito Y, Kusumi I	4. 巻 13
2. 論文標題 Prediction of major depressive episodes and suicide-related ideation over a 3-year interval among Japanese undergraduates	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 e0201047
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0201047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 朝倉 聡	4. 巻 60
2. 論文標題 双極II型障害と不安症の併存	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 741-748
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朝倉 聡	4. 巻 11
2. 論文標題 種々の精神疾患にみられる対人恐怖・社交不安症状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神科診断学	6. 最初と最後の頁 49-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井 泰, 朝倉 聡	4. 巻 21
2. 論文標題 社交不安症におけるストレス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床精神薬理	6. 最初と最後の頁 489-495
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高信径介、渡辺晋也、三井信幸、賀古勇輝、朝倉 聡、久住一郎	4. 巻 22
2. 論文標題 過量服用への予防介入-本邦におけるものを中心に-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床精神薬理	6. 最初と最後の頁 285-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Asakura Satoshi, Yoshinaga Naoki, Yamada Hisashi, Fujii Yutaka, Mitsui Nobuyuki, Kanai Yoshihiro, Inoue Takeshi, Shimizu Eiji	4. 巻 43
2. 論文標題 Japanese Society of Anxiety and Related Disorders/Japanese Society of Neuropsychopharmacology: Clinical practice guideline for social anxiety disorder (2021)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 288 ~ 309
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12365	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tan Dat Nguyen, Mitsui Nobuyuki, Asakura Satoshi, Fujii Yutaka, Toyoshima Kuniyoshi, Kusumi Ichiro	4. 巻 14
2. 論文標題 Relationship between self-esteem and suicidal ideation before and during COVID-19 in a non-clinical sample: mediating effects of psychological distress and hopelessness	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2023.1240715	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 朝倉 聡	4. 巻 112増刊号
2. 論文標題 社交不安症	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 診断と治療	6. 最初と最後の頁 149-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朝倉 聡	4. 巻 10
2. 論文標題 社交不安症up to date	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 精神科臨床Legato	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井 泰, 朝倉 聡	4. 巻 81
2. 論文標題 不安	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本臨床	6. 最初と最後の頁 1510-1516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井 泰, 朝倉 聡	4. 巻 65
2. 論文標題 不安症回復の時間経過-長期予後をふまえて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 1490-1497
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井 泰, 朝倉 聡	4. 巻 27
2. 論文標題 社交不安症の評価に有用な尺度	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 臨床精神薬理	6. 最初と最後の頁 357-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症の診療ガイドラインの現在地 (シンポジウム)
3. 学会等名 第14回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症における神経発達症の併存の意義 (シンポジウム)
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 現在の社会病理を反映する common diseaseとしての社交不安症-最近の臨床像の動向と対応- (シンポジウム)
3. 学会等名 第41回日本社会精神医学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症診療ワークショップ-診療ガイドラインに基づく治療介入を学ぶ- (ワークショップ)
3. 学会等名 第14回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症診療ワークショップ-診療ガイドラインに基づく治療介入を学ぶ- (ワークショップ)
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症診療ワークショップ-診療ガイドラインに基づく治療介入を学ぶ-(ワークショップ)
3. 学会等名 第44回日本生物学的精神医学会/第32回日本臨床精神神経薬理学会/第52回日本神経精神薬理学会/第6回日本精神薬学会/4学会合同年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石原 可愛, 三井 信幸, 藤井 泰, 朝倉 聡, 橋野 聡
2. 発表標題 COVID-19に伴う北海道大学精神衛生相談受診学生の経年的変化の検討
3. 学会等名 第60回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 対人恐怖・社交不安症の臨床
3. 学会等名 第13回日本不安症学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症の診療ガイドライン
3. 学会等名 第13回日本不安症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡辺 晋也, 三井 信幸, 朝倉 聡, 賀古 勇輝, 藤井 泰, 豊島 邦義, 高信 径介, 久住 一郎
2. 発表標題 日本人大学生における社交不安症と大うつ病エピソード併存の予測因子
3. 学会等名 第13回日本不安症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤井 泰, 朝倉 聡, グエン・タン ダット, 高信 径介, 渡辺 晋也, 豊島 邦義, 三井 信幸, 賀古 勇輝, 橋野 聡, 久住 一郎
2. 発表標題 大学新入生のメンタルヘルスに及ぼすCOVID-19の影響
3. 学会等名 第13回日本不安症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ヌーイエン タン・ダット, 三井 信幸, 朝倉 聡, 渡辺 晋也, 高信 径介, 藤井 泰, 豊島 邦義, 賀古 勇輝, 久住 一郎
2. 発表標題 日本人大学生の自尊感情、社交不安、および自殺念慮の関連における絶望感の媒介効果
3. 学会等名 第13回日本不安症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石原 可愛, 三井 信幸, 藤井 泰, 朝倉 聡, 橋野 聡
2. 発表標題 COVID-19に伴う北海道大学精神衛生相談受診学生の経年的変化の検討
3. 学会等名 第59回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症の診療ガイドライン
3. 学会等名 第50回日本神経薬理学会/第42回日本生物学的精神医学会/第4回日本精神薬学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症の診療ガイドライン
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症診療ガイドラインをいかに臨床に活かすか
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石原 可愛, 三井 信幸, 藤井 泰, 朝倉 聡, 橋野 聡
2. 発表標題 保健センターの精神衛生相談を利用した留学生の抑うつ傾向についての検討
3. 学会等名 第58回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 朝倉 聡, 山田 恒, 藤井 泰, 三井信幸, 吉永尚紀, 金井嘉宏
2. 発表標題 社交不安症の診療ガイドライン
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症治療でベンゾジアゼピン系抗不安薬はいかに用いられるべきか
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朝倉 聡, 山田 恒, 藤井 泰, 三井信幸, 吉永尚紀, 金井嘉宏
2. 発表標題 社交不安症の診療ガイドライン
3. 学会等名 第49回日本神経精神薬理学会/第29回日本臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症における良好な予後のための治療導入の実践
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 朝倉 聡, 山田 恒, 藤井 泰, 三井信幸, 吉永尚紀, 金井嘉宏
2. 発表標題 社交不安症の診療ガイドライン
3. 学会等名 第11回日本不安症学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症治療の最適化を目指してーその異種性をいかに捉え、いかに治療に反映させるのか
3. 学会等名 第11回日本不安症学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺晋也, 三井信幸, 朝倉 聡, 高信径介, 賀古勇輝, 久住一郎
2. 発表標題 社交不安がうつ病エピソードに伴う自殺念慮に与える影響について
3. 学会等名 第11回日本不安症学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石原可愛, 横尾早苗, 一條理絵, 三井信幸, 朝倉 聡, 横田 卓, 小西 剛, 橋野 聡
2. 発表標題 全国大学保健管理施設における留学生対応実態調査による今後の支援方法の明確化 第一報
3. 学会等名 第56回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症の診療ガイドライン
3. 学会等名 第15回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 現在のcommon disease としての社交不安症
3. 学会等名 第119回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症の診療ガイドラインとその臨床的実践
3. 学会等名 第119回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 朝倉 聡
2. 発表標題 社交不安症の薬物療法の再考
3. 学会等名 第33回日本臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石原 可愛, 三井 信幸, 宇土 仁木, 朝倉 聡
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症流行に伴う大学生の社交不安症状の変化
3. 学会等名 第61回全国大学保健管理研究集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関